第 9 回

アーティスト・イン・レジデンスの成果展

Part1

— Winds of Artist in Residence 2008 Part 1 —

インドとフィリピンからやって来た 2 人のアーティストによる滞在制作展。



ミーラ・ジョージ (インド) & **ドン・サルバイバ (フィリピン)**

Meera George　　Don M. Salubayba

2008 **8/16(土)—8/31(日)**

会　　場　福岡アジア美術館　交流ギャラリー（８階）
開館時間　午前１０時～午後８時
休 館 日　水曜日
観 覧 料　無料
主　　催　福岡アジア美術館

福岡アジア美術館
Fukuoka Asian Art Museum

開会式 & アーティスト・トーク

8 月 16 日（土）
午前 9 時 45 分～
場所：交流ギャラリー（８階）
入場無料

Introduction

国内外で活躍する新進気鋭のアーティスト、ミーラ・ジョージ（インド）とドン・サルバイバ（フィリピン）の滞在制作展がいよいよ開催されます。
二人のアーティストは、福岡アジア美術館の美術作家交流事業（アーティスト・イン・レジデンス）に参加するために、６月９日から福岡に滞在し、市民とのワークショップや様々な交流を通して、アジアの社会状況や同時代のリアリティを反映した、福岡ならではの作品を制作してきました。その滞在制作の成果をぜひご覧ください。

Artists

ミーラ・ジョージ / Meera George（1979 年生まれ / インド、チェンナイ在住）

映像、インスタレーション、パフォーマンスなどの多彩な表現方法を通して、女性を取り囲む社会的な状況について問いかける女性アーティスト。
デリー大学（インド）とケント芸術大学（イギリス）で美術を学んだ。福岡アジア美術館には、６月９日から８月１９日まで滞在。


①

インドの伝説上の女性「ドラウパティ」が福岡の様々な場所に現れるというパフォーマンスの映像作品［写真①］と、部屋全体をインドの伝統的な布・サリーで覆うインスタレーション［写真②③］を展示します。


②


③

ドン・サルバイバ / Don M. Salubayba（1978 年生まれ / フィリピン、マニラ在住）

絵画や影絵のアニメーションを用いて、フィリピン社会の現実を重層的・風刺的に表現する男性アーティスト。
フィリピン大学で美術を学んだ。福岡アジア美術館には、６月９日から９月１日まで滞在。


④

福岡の昔話「せんぐり食い」やフィリピンの植民地時代の歴史・逸話にもとづいた絵画［写真④］や影絵アニメーション［写真⑤］を制作。 本展では、それらで構成されたインスタレーションと、ワークショップの参加者が作った影絵アニメーション［写真⑥］を展示します。


⑤


⑥

Information

開会式＆アーティスト・トーク
日時：8 月 16 日（土）午前 9 時 45 分～
場所：交流ギャラリー（８階）

福岡アジア美術館
Fukuoka Asian Art Museum
福岡市博多区下川端町 3-1 リバレインセンタービル 7・8 階
（地下鉄「中洲川端」駅下車すぐ / 西鉄バス「川端町・博多座前」バス停下車すぐ）
TEL 092-263-1100　ホームページ http://faam.city.fukuoka.lg.jp
休館日 水曜休館　開館時間 午前 10 時～午後 8 時　入場は午後 7 時 30 分まで